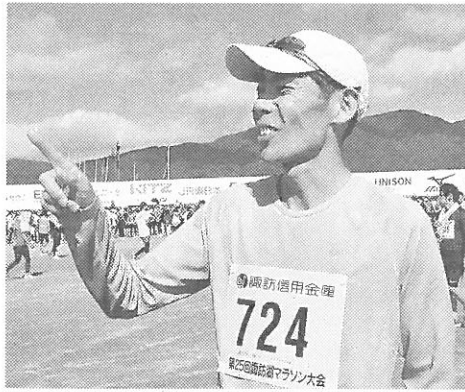


生きる喜び走る姿見て

茅野出身のランナー・大久保さん

がん・肺の難病体験



ゴール後、リラックスした表情を見せる大久保さん＝諏訪市の諏訪湖ヨットハーバー

病氣と闘う人たちを励まし、勇気づけたい。がんと難病を克服した茅野市出身の市民ランナー大久保淳一さん（49＝東京都港区芝浦）が諏訪湖マラソンを完走した。「生きて記録を伸ばし続けていることを、みんなに伝えたい」という。

以前からマラソンをしてきた大久保さんは2007年2月、軽井沢町でランニングの練習中、氷で滑って

転び、右足を骨折した。入院中、睾丸がんが見つかった。その後、腹部や肺、首への転移が分かり、抗がん剤治療も受けた。

がんは治癒したかに見えた。しかし、抗がん剤の副作用で間質性肺炎を患った。発症から10年で生存率20%以下とされる肺線維症も併発。命を取り留めることができたものの、肺機能は50%ほどに落ち込んだ。

入院中、励まされたのがランニング雑誌で読んだ乳がんを克服した女性ランナーの記事だった。10カ月の闘病と壮絶なりハビリの後、大久保さんは09年夏、職場にフルタイムで復帰し